

製品安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名 : インクリボン
H086044-00
用途 : 印画紙裏面印字用インクリボン
会社名 : ノーリツプレシジョン株式会社
住所 : 和歌山県和歌山市梅原579-1
担当部門 : 品質保証室
連絡先 : 電話番号 (073-456-3969) F A X 番号 (073-456-3991)
E-mail (msds@nkc.noritsu.co.jp)

2. 危険有害性の要約

【GHS分類】

物理化学的危険性	可燃性固体	: 分類できない
健康有害性	急性毒性(経口)	: 分類できない
	急性毒性(経皮)	: 分類できない
	急性毒性(吸入)	: 分類できない
	皮膚腐食性及び皮膚刺激性	: 分類できない
	眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	: 区分2B
	呼吸器感作性	: 分類できない
	皮膚感作性	: 分類できない
	生殖細胞変異原性	: 分類できない
	発がん性	: 分類できない
	生殖毒性	: 分類できない
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	: 分類できない
	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	: 分類できない
	吸引性呼吸器有害性	: 分類できない
環境有害性	水生環境有害性(急性)	: 分類できない
	水生環境有害性(長期間)	: 分類できない
	オゾン層への有害性	: 分類できない

【GHSラベル要素】

絵表示又はシンボル



注意喚起語 : 警告
危険有害性情報 : 眼刺激
注意書き
[安全対策] : 取扱い後は手及び眼をよく洗うこと。
: 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

- [応急措置] ・眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 ・眼の刺激が続く場合：医師の診断/手当てを受けること。
- [保管] ・なし
- [廃棄] ・なし

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 成型品

製品名または一般名 : 印画紙裏面印字用インクリボン

成分	濃度範囲(%)	化学式	官報公示整理番号	CAS No.
ABS 樹脂	60~70	—	6-176(化審法・安衛法)	9003-56-9
POM 樹脂	1~10	—	—	24969-26-4
溶剤1	1~10	非公開	非公開	非公開
溶剤2	1~<10	非公開	非公開	非公開
ナイロン繊維	1~10	—	7-382(化審法・安衛法)	32131-17-2
PET 繊維	1~10	—	7-1022(化審法・安衛法)	25038-59-9
染料	1~10	非公開	非公開	非公開
鉄	1~10	Fe	対象外(化審法) 既存(安衛法)	7439-89-6
羊毛繊維	1~10	—	—	(CASNo.未登録)
ゴム材1	<1	C ₁₀ H ₇ NO ₂	5-5727(化審法) 8-(1)-1771(安衛法)	9003-18-3
ゴム材2	<0.1	C	対象外(化審法) 既存(安衛法)	1333-86-4
有機顔料	<1	非公開	非公開	非公開

4. 応急措置

- 吸入した場合
- ・揮発したガスを吸入した場合、空気の新鮮な場所に移動させ、体を毛布等で覆い保温し安静に保つ。
 - ・呼吸困難に陥った場合は、衣類を緩め気道を確保した上で酸素吸入あるいは人工呼吸を行う。
 - ・必要に応じて医療措置を受ける。
- 皮膚に付着した場合
- ・付着した部分は流水で流した後、石けんを用いてよく洗い落とす。
 - ・汚染された衣類、靴等を速やかに脱ぎ捨てる。
 - ・痒み、痛み等、皮膚に異常が生じた場合は医師の診察を受ける。
 - ・眼に入った場合 ・清浄な水で最低15 分間眼を洗浄する。
 - ・洗眼の際、まぶたを指でよく開き、眼球のすみずみまでよく水が行きわたるように眼を上下左右に動かす。
 - ・直ちに医師の手当てを受ける。
- 飲み込んだ場合
- ・水で口の中をすすぎ、医師の診察を受ける。
 - ・無理に吐かせてはならない。
 - ・嘔吐が自然に起こった場合は、気管に入らないように身体を傾ける。

5. 火災時の措置

- 消火剤
- ・粉末、二酸化炭素、乾燥砂、泡、水噴霧
- 使ってはならない消火剤
- ・特になし
- 火災時の特有の危険有害性
- ・有毒なガス(一酸化炭素等)が発生するおそれがある。
- 特有の消火方法
- ・初期の火災には、粉末、二酸化炭素、乾燥砂などを用いる。
 - ・大規模火災の場合は、泡消火剤で空気を遮断し、一気に消火する。
 - ・周辺火災の場合は、周辺の設備などに散水して冷却する。
 - ・移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。
 - ・消火水や希釈水の流出により環境汚染を引き起こさないように注意する。
- 消火を行う者の保護
- ・消火作業は必ず自給式呼吸器等の保護具を着用し、風上から行う。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

- ・本製品が散乱した場合は、「7. 取扱い及び保管上の注意」を参照すること。
 - ・回収作業の際には保護具を着用すること。
 - ・風下で回収作業をしてはならない。
- 環境に対する注意事項
- ・本製品が散乱した場合は速やかに回収し、土壌、下水、河川、排水溝等へ廃棄をしない。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

- ・付近の着火源となるものを取り除き、火災発生の防止に努める。
- ・回収物は「13. 廃棄上の注意」の項の記載に準じて処分する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- ・蒸気の吸入及び皮膚との接触は極力避ける。ばく露のおそれがある場合は、適切な保護具を着用すること。
- ・取扱い後はうがい、手洗い、洗顔を励行する。
- ・経皮的に吸収される可能性があるため、取扱いには注意する。
- ・体に異常を感じたり、異常が発生した場合は、第4項の応急措置を講じた後に、必ず医師の診断を受けること。

保管

- ・直射日光及び高温を避け、乾燥した換気のよい場所に保存する。
- ・保管場所は火気厳禁とする。
- ・混触危険物質から離して保管する。(第10項参照)

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策

- ・本製品の加工/切断等を行う場合は粉じんの管理が必要である。

管理濃度 作業環境評価基準

- ・設定されていない

許容濃度

日本産業衛生学会¹⁾

- ・第3種粉塵 (吸入性粉塵) 2mg/m³ (総粉塵) 8mg/m³ (その他の無機および有機粉塵)
- ・第2種粉塵 (吸入性粉塵) 1mg/m³ (総粉塵) 4mg/m³ (カーボンブラック)

ACGIH-TLV²⁾

- ・(TWA) 3mg/m³ (I) (カーボンブラック)

注) (TWA): 時間加重平均値(8時間) (I): Inhalable fraction

保護具

呼吸用保護具

: 必要に応じて適切な呼吸用保護具を着用すること。

手の保護具

: 必要に応じて適切な保護具を着用すること。

眼の保護具

: 必要に応じて適切な保護具を着用すること。

皮膚及び身体の保護具

: 必要に応じて適切な保護具を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

外観

: (インキ単) 体黒液体

臭い

: (インキ単) わずかに臭う

臭いの閾値

: データなし

pH

: データなし

融点・凝固点

: データなし

沸点、初留点と沸騰範囲

: データなし

引火点

: (インキ単) $\geq 200^{\circ}\text{C}$

蒸発速度

: データなし

燃焼又は爆発範囲の上限・下限

: データなし

蒸気圧

: データなし

蒸気密度

: データなし

比重

: (インキ単) 0.8~1.0

溶解度

: (インキ単) 水に難溶

n-オクタノール/水分配係数

: データなし

自然発火温度 : (インキ単) >=350℃
分解温度 : データなし
粘度 : データなし

10. 安定性及び反応性

反応性 : 危険有害反応可能性の項参照。
安定性 : 通常の取扱い条件においては安定。
危険有害反応可能性 : 混触危険物質に触れると反応するおそれがある。
避けるべき条件 : 直射日光、高温
混触危険物質³⁾ : 酸、酸化剤
危険有害な分解生成物 : 燃焼により有毒なガス(一酸化炭素等)が発生するおそれがある。

11. 有害性情報

製品としてのデータはないが、成分としてのデータを以下に記す。

急性毒性

[経口毒性]

溶剤1	ラット	LD ₅₀	3000	mg/kg ⁴⁾
溶剤2	ラット	LD ₅₀	25000	mg/kg ⁴⁾
ステンレス	ラット	LD ₅₀	750	mg/kg ⁴⁾
ゴム材1	ラット	LD ₅₀	153	mg/kg ⁵⁾
ゴム材2	ラット	LD ₅₀	>8000	mg/kg ⁵⁾

[経皮毒性]

溶剤1	ウサギ	LD ₅₀	17808	mg/kg ⁴⁾
-----	-----	------------------	-------	---------------------

[吸入毒性]

記載すべき成分データなし

注)LD₅₀:半数致死用量

皮膚腐食性及び皮膚刺激性

溶剤1 : ウサギを用いた皮膚刺激性試験の結果、軽度の刺激性を示した。⁴⁾
溶剤2 : ヒトの皮膚に対し、中等度の刺激性を示した。⁴⁾
ゴム材2 : ウサギを用いた皮膚刺激性試験の結果、刺激性を示さなかった。⁵⁾

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

溶剤1 : ウサギを用いた眼刺激性試験の結果、軽度の刺激性を示した。⁴⁾
溶剤2 : ウサギを用いた眼刺激性試験の結果、軽度の刺激性を示した。⁴⁾
ゴム材2 : ウサギを用いた眼刺激性試験の結果、刺激性を示さなかった。⁵⁾

呼吸器感作性

記載すべき成分データなし

皮膚感作性

記載すべき成分データなし

生殖細胞変異原性

記載すべき成分データなし

発がん性

ゴム材2 : IARC : 2B(ヒト発がん性の可能性がある)²⁾
産衛 : 2B(ヒト発がん性が可能性ある(証拠が少ない))¹⁾
ACGIH : A3(動物発がん性物質)²⁾

生殖毒性

記載すべき成分データなし

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

記載すべき成分データなし

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

ゴム材2 : 長期にわたる、又は反復ばく露による呼吸器系への障害が報告されている。⁵⁾

吸引性呼吸器有害性

記載すべき成分データなし

1 2. 環境影響情報

生態毒性

ゴム材2	ウグイ	LC ₅₀ (96h)	>1000 mg/l ⁵⁾
	オミジノコ	EC ₅₀ (24h)	>5600 mg/l ⁵⁾
	セネデスス	EC ₅₀ (72h)	>10000 mg/l ⁵⁾

有害性は、GHS 有害性区分より低い。⁵⁾

注)LC₅₀:半数致死濃度 EC₅₀:半数遊泳阻害濃度

残留性・分解性

溶剤1	[分解度(BOD)] 0% ⁶⁾ 既存化学物質安全性点検において、難分解性と判定されている。 ⁶⁾
溶剤2	[分解度(BOD)] 78% ⁶⁾ 既存化学物質安全性点検において、良分解性と判定されている。 ⁶⁾
染料	既存化学物質安全性点検において、難分解性と判定されている。 ⁶⁾
ゴム材1	既存化学物質安全性点検において、難分解性と判定されている。 ⁶⁾
ゴム材2	難水溶性である。 ⁵⁾

生体蓄積性

溶剤1	既存化学物質安全性点検において、低濃縮性と判定されている。 ⁶⁾
染料	既存化学物質安全性点検において、低濃縮性と判定されている。 ⁶⁾
ゴム材2	既存化学物質安全性点検において、低濃縮性と判定されている。 ⁶⁾

土壤中の移動性

記載すべき成分データなし

オゾン層への有害性

記載すべき成分データなし

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物

- ・ 認可を受けた専門業者に委託する。
- ・ 関係法令を遵守し、自治体の指示に従うこと。

汚染容器及び包装

- ・ 関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行うこと。
- ・ 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

1 4. 輸送上の注意

国連番号	: 非該当
品名	: 非該当
国連分類	: 非該当
容器等級	: 非該当
応急措置指針番号	: 非該当
海洋汚染物質	: 非該当

輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策

- ・ 衝撃、転倒、落下、破損のないように積み込み、荷崩れ防止を確実に行う。
- ・ 車両等への積み下ろしの際は、サイドブレーキをかけ、エンジンを停止させ、車止めを施す。
- ・ 「7. 取扱い及び保管上の注意」の記載に準じて取扱う。
- ・ 輸送関係法規を厳守する。

1 5. 適用法令

労働安全衛生法	: 名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物(リスクアセスメント対象) 非該当
毒劇物取締法	: 非該当
化学物質排出把握管理促進法(PRTR 法)	: 非該当
水質汚濁防止法	: 指定物質(鉄(法文名:鉄及びその化合物))

1 6. その他の情報

インクリボン

H086044-00-03

5/6

- 引用文献 : 1)「許容濃度等の勧告(2018年度)」産業衛生学雑誌 60 巻
2)2019 Guide to Occupational Exposure Values (ACGIH)
3)国際化学物質安全性カード(ICSC)(国際労働機関/ILO)
4)Registry of Toxic Effects of Chemical Substances (CCOHS)
5)GHS 分類結果データベース(独立行政法人 製品評価技術基盤機構)
6)化審法データベース(独立行政法人 製品評価技術基盤機構)

このSDS は、JIS Z 7253(2012)、GHS 分類は、Z 7252(2014)に準拠して作成しています。
ここに記載された情報は、弊社データを含め種々の技術出版物にあるデータに従ったものです。必要かつ
安全な取扱いを決定する場合には、使用者がその責任においてこの情報の利用をお決め下さい。
なお、ここに記載された情報は、作成時点では弊社の調査による最新の情報に基づき作成されたもので
すが、法律、規制等の改正、新たな毒性試験結果の発表等により、改訂がありうることをご承知下さい。